

## 当院における在宅血液透析(HHD)脱落例の検討

医療法人衆和会 長崎腎病院

○船越 哲 佐藤泰崇 田賀農恵 藤原久子 林田めぐみ 田中 健 永野かおり 橋口純一郎 久保純子  
河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司

### 【目的】

HHD 教育中または移行後早期に脱落した症例を検討する。

### 【方法】

2006 年から 2018 年末までに当院の維持透析患者で HHD 導入の希望があり文書による同意を得た 25 名のうち、HHD 教育中または移行後に他疾患等の理由以外で脱落し、再び施設通院透析の方針となった 5 例を解析する。

### 【結果】

男性 4 例女性 1 例、年齢は 43 歳から 80 歳、HHD 導入の目的は体調改善が 2 例、社会復帰が 1 例、通院困難が 2 例であった。HHD 脱落の時期は教育中に 2 例、HHD 移行後に 3 例であった。脱落の理由は患者の認知症が 2 例、抑うつが 1 例、介護者との連携困難が 2 例であった。尚、脱落例のうち介護者 5 名中、看護師が 3 名であった。

### 【考察】

HHD 脱落例の傾向としては、患者自身の学習能力不足・精神的問題が特徴と考えられ、これを介護者がたとえ看護師であってもカバーすることは難しい。今後は HHD の適応を、患者自身の能力と精神状態を第一に考えた